

平成21年

季刊

秋季号

Vol.30

亞東

馬英九 



中華民國總統馬英九閣下と訪台団：總統府にて



社団法人亞東親善協會

The East Asian Friendship Association

社団法人 亜東親善協会の概要

名称 社団法人 亜東親善協会

(英文名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の斡旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

亜東親善協会の変遷

社団法人亜東親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で、昭和二十四年（一九四九年）東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。

第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。

その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、昭和四十七年（一九七二年）の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち昭和四十六年（一九七一年）、千葉三郎先生（故人・衆議院議員、労働大臣）は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り自ら発起人となり同年五月二十九日『社団法人亜東親善協会』（外務省認可）を設立したのであります。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生（故人）が参議院議長の要職のまま会長に就任され、内外の信望を集めました。その後、原先生の意を受け、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生（故人）が会長を引き継がれ、幾多の変遷を経て参りました。

現在、日本を始め東アジア諸国は、台湾海峡問題と北朝鮮の核問題という二つの問題があります。この両問題には中国は大きく関わっています。かかる情勢の中で本協会の目的達成事業が発展することは、アジアの繁栄と平和に貢献するものと信じております。平成十三年まさに二十一世紀の幕開けを期して、玉澤徳一郎先生を迎え、さらに陣容を強化し、英知を結集して努力を続けている次第です。

社団法人亜東親善協会六十周年を迎えて 祝 亜東親善協会設立六〇周年 日本と台湾の関係を大切に 中選挙区制度再考の時期 私の中の台湾 亜東親善協会設立六十周年を祝う 台湾と日本 NHKシリーズJAPANデビューを考える 亜東親善協会六十周年に当り 横浜開港一五〇周年を迎えて 亜東親善協会設立六十周年にあたって 「わすれないと」と「仲直りしなければ」 台湾はどこへ行くのか 亜東親善協会の六十周年を祝う 私の台湾に対する基本的認識 平成二十一年訪台報告 第三十八回通常総会報告 平成二十年度日台友好親善訪台団報告 創立六十周年記念広告 お知らせ 編集後記 顧問国會議員・関係団体・役員名簿	社団法人亜東親善協会会長・衆議院議員 台北駐日経済文化代表處・代表 日華議員懇談会会長・衆議院議員 社団法人亜東親善協会副会長・参議院議員 社団法人亜東親善協会顧問・衆議院議員 社団法人亜東親善協会顧問・参議院議員 社団法人亜東親善協会顧問・参議院議員 社団法人亜東親善協会顧問・参議院議員 社団法人亜東親善協会顧問・参議院議員 社団法人亜東親善協会顧問・参議院議員 財団法人交流協会・理事長 財団法人台湾協会・理事長 社団法人亜東親善協会顧問・元拓殖大学総長 社団法人亜東親善協会・副会長 社団法人亜東親善協会・理事 社団法人亜東親善協会・会員	玉澤徳一郎 馮 寄台 平沼尅夫 大江康弘 大野功統 山本順三 松下新平 赤池誠章 高鳥修一 中田 宏 畠中 篤 齋藤 毅 小田村四郎 池田偵一郎 吉村俊夫 齋藤民生	四頁 六頁 八頁 一〇頁 一三頁 一六頁 一八頁 二〇頁 二二頁 二四頁 二六頁 二八頁 三〇頁 三二頁 三四頁 三七頁 三八頁 三九頁 四三頁 四六頁 四七頁
---	--	---	--



社団法人亜東親善協会会長
衆議院議員 玉澤徳一郎

亜東親善協会六〇周年を迎えて

社団法人亜東親善協会は、昭和二四年（一九四九年）華南俱樂部が始まりで、昭和四六年に千葉三郎先生が、俱樂部を強化発展する方向で、亜東親善協会となり、時代の變遷を得て今日を迎えました。

初代会長は閑院春仁氏（閑院宮春仁王）で、二代目が千葉三郎先生、三代目が原文兵衛先生、四代目が藤尾正行先生でありました。

今日六〇周年を迎えることが

できましたことは、このような立派な先生方のご指導と歴代会員の皆様のご協力の賜物であり心より感謝申し上げます。

私は昭和三五年（一九六〇年）の安保騒動の際、大学生でしたが、学生運動の荒れ狂う中にいて、この学生運動は、単なる学生運動にあらず、当時のソ連、中国の後押しによる日米分断、日本の共産革命の始まりと直感し、一学生として及ぶ限りの抵抗を行った。早大雄弁会の中の志を同じくする同志と共に日米安保賛成運動を展開しました。その時の運動が、自民党の青年部の結成となった。議会政党内にあった自民党が、大衆組織政党と変化してゆく端緒となった。私はこの運動を機として、千葉三郎先生の知遇をいただき、MIRA（道徳再武装運動）のお招きをいただき、世界の各地を廻り、共産主義との戦いの現場を廻る機会をいただいた。

ドイツでは、東西ドイツに分裂していた状況のなか、ベルリンの壁が築かれる六ヶ月前の緊張した状況の中で、共産東ドイツから、続々と学生、青年、労働者が亡命を始めてきており、難民收容所での学生同士対話集会をしたがお互いに盛り上がり、共に共産主義と戦いを誓い合った。そのベルリンの壁も六〇年六月に築かれた、一九八九年崩壊して今年で二〇周年を迎えた。

アメリカでは、フロリダのマイアミに一九六一年の初めにいったが、キューバの共産革命によつて多くの難民、それも青年が多かった。そしてある朝彼等の姿が一斉に見えなくなったと思つたらキューバに反攻上陸したとのこと、しかし、米国の制空権の援助を得られず失敗したことをニュースで知らされ残念であった。

南米では、ブラジル、ペルー、ボリビア、チリと廻つたが、ボ

リビアの情勢は、まさに革命前夜の様相を示していた。オルロの鉱山地帯では、連日デモや集会が行なわれており、反共の誓となつているカトリック教会に對する嫌がらせが続いていた。

我々の運動は、道徳こそ民主主義の根本にならなければならぬという考えで劇や映画をするのだから、彼らも反対のしようがない。オルロを去るとき、高地の一本の草もない山肌の上に、あちこちに人々が立つて手を振つて別れを惜しんでくれた光景は忘れられない。

その二年後にチェェグバラがキューバから侵入してきて革命を試みたが失敗した。その原因は、ボリビアの民族主義と衝突したことにあると考えている。

その後、アジアにきてインド、バングラデシュ（当時東パキスタン）、ベトナムと廻つたが、ベトナム戦争の初期で、米軍も顧問団が駐在していただけだった

が、嚴重な警備であつたが各地の村に行けたし、首都のフエにも滞在した。その後、米軍が増派されて、大々的な戦争も行なわれたが、勝利することはなかつた。私は、考えるにポリビアと異なつて、ベトナムの民族主義はホーチミンにとられたことが敗因の根本にあると考える。そして最後に訪問したのは一九六二年五月六月台湾であつた。蒋介石總統は大陸反攻を唱えて健在であられた。

千葉三郎先生が訪台して、張群先生と会談された時、我々学生を前にして学生運動の評価をめぐつての論壇であつた。張群先生は学生運動を低く見ると必ず失敗するという趣旨であつたと思つた。千葉先生のお応えも立派であつた。日本は何故共産化しなかつたか、革命の帰趨を決めるのは武力でありそれを構成する軍と警察が革命側に付かなかつたからである。当時の宮本

顕治共産党書記長は、暴力革命から手を引いた理由を少なくとも、軍（自衛隊）と警察が中立的態度をとらない限り、革命は成功には至らないと総括した。（この共産党にあきたらないセクトは過激派し、反日共系となり七〇年安保の戦いが始まる）大陸反攻の最後のチャンスも、その後すぐに来た、毛沢東の人民公社、総路線政策の失敗によつて、中国に最大の飢餓が襲つた、幾十万もの民衆が食物を求め香港を目指して襲来したが、英国は一旦入れて中国に帰国させたが香港市民は食糧を与えて親愛の情を示した。蔣總統は、この民衆の上に落下傘で師団の幹部と装備を空から落下させて民衆を武装化して大陸反攻を実施しようとしたが、米國が情報をやキャッチして、これを止めたのである。しかし、これが歴史の転換点になつたと今後評価されると思つるのは、中国民衆が共

産党支配に見切りをつけた始まりであつたということである。毛沢東の政策の失敗を、実際に実務を取っている劉少奇派が実権を握り、政策の修正を始める、これを奪権闘争とみた毛沢東が、これを奪権闘争とみた毛沢東が、軍の林彪と組んで始めたのが文化大革命である。約一〇年間の間、悲惨な闘争が繰り返され、劉少奇は、軟禁されて、殺され、民族数百万人が犠牲となつた。毛の死後、天安門事件が起きたのは、当然の帰結であつた。しかし、学生運動を支持した趙紫陽總書記は鄧小平以下、権力を民主革命によつて失うことを恐れた勢力によつて失脚させられ、中国のゴルバチョフなり得なかつた。天安門事件から二十年、中国はけいざいてきには、市場経済を取り入れて発展しているが、経済の自由化は、必ず政治の自由化に帰結することは明確なる歴史の必然である。大河が流れるごとく中国の民

主化がアジアの平和の鍵となることを確信し、その方策を推進すべきことを提言したい。北朝鮮は、一九九五年防衛庁長官になつたとき、私はこの地球に残された最後のスターリン國家と申し上げたが、今日まで命脈を保ち、核開発を行い、周辺諸國に脅威を撒き散らしている。しかし、金正日の命脈も尽きんとしており、国連の決議の実行を各國協力して着実にこなつて、暴発を防ぐことに全力を挙げて行くならば何れ南北韓島の民主統一がなされるであろう。以上六〇周年に当たつて、私の経験を踏まえて感想を述べさせていただきます。亜東親善協会の目的は、アジアの平和と親睦に寄与する事にあると存じます。今後、その精神・目的を達成することを目指して精進することをお誓い申し上げ、會員の皆様のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。



台北駐日経済文化代表處

代表 馮 寄台

祝亜東親善協会設立六十周年

風薫るさわやかな季節となりました。

亜東親善協会の皆様におかれましては益々御清祥のこととお喜び申し上げます。

亜東親善協会は今年でちょうど設立六十周年を迎える節

目となり、誠におめでとうございます。

亜東親善協会の六十年間の歩みはまさに戦後の台日関係を語る歴史でもあり、その間台日双方の努力によって多くの実を結んできました。

一、台日関係の発展

近年、日本と台湾との関係は着実に進展しており、各分野における交流がさらに密度を増しております。

日本との相互ノービザ措置と自動車運転免許証相互承認に加え、今年を「台日特別パートナー関係促進年」と位置づけており、五月十三日に当

代表処札幌支所の開設に関する書簡が取り交わされ、

六月一日から双方青少年のワーキングホリデー制度が始まります。

そして、青少年交流事業の一環として双方各一〇〇名の相互訪問がすでに実施されて

おり、今後故宮博物院所蔵品の日本での展示も企画しております。

このほか、来年の羽田空港新滑走路完成後、台北松山空港と東京羽田空港との航空路線が開設されます。

再来年には、烏山頭ダムの技師八田与一の旧宿舍を復元し、記念公園を設立する計画

もありません。

このように台日関係は確実に向上しており、亜東親善協会の皆様方からは日頃より多大なご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

二、台湾が世界保健機関総会(WHA)へのオブザーバー参加

四月二八日に、我が国は世界保健機関(WHO)から書簡を受け取り、五月十八日にジュネーブで行われる年次総会(WHA)にオブザーバーとして出席することが実現いたしました。

我が国政府は長い間、国民

の生活と福祉に密接な関連のある国際機関への参加を全力で推進しており、とりわけWHOへの参加を最も重要課題として取り組んで参りました。

長年の念願がようやく叶い、

誠に喜ばしいことと存ずると

同時に、世界各国がH1N1新型インフルエンザの感染防止に取り組んでいる今、我が国のWHAへのオブザーバー

参加によってグローバルな防

疫体制に寄与することが出来ますし、これからも我が国の医療技術と経験をもつてより一層の国際貢献に資するものと確信しております。

三、台日国民の相互意識に関

する世論調査

台湾と日本の民間関係がこれほど緊密であるのは、他に見えないと言つても過言ではありません。

ご存じのように日本文化は台湾人の日常生活に深く浸透しており、台湾文化の中にも大変重要な地位を占めております。

また、最近 日本交流協会が行った台湾人の対日意識に関するアンケート調査では、約七割の人が日本に好感を抱いていることが分かりました。

一方、当代表処がギャラツ

プ会社に委託して日本の方に電話調査を行ったところ、全体の半数以上の五六%の方が台湾に親近感を示しており、台湾と日本との関係について、七六%の方が良好との認識を示しており、約七割の方が台湾を信頼していることも明らかにになりました。

貴国に着任して八ヶ月余り経った今、台湾と日本との緊密さを実感することが出来、そして激動する国際情勢の中で、両国の友好協力関係がますます重要であり、双方の橋渡しを担っている自分の責任の重大さを改めて痛感しております。

今後とも台湾と日本が手を携え、新しい歴史と新しい友好交流を築き上げるべく全力で取り組んで参る所存です。で、何卒引き続きお力添えのほどお願い申し上げます。

結びに平素より多大なご支援、ご協力を賜っている亜東親善協会の皆様方に、重ねてお礼を申し上げますとともに、皆様のますますのご多幸と貴協会の更なるご発展をお祈り申し上げます。



日華議員懇談会会長
衆議院議員 平沼赳夫

日本と台湾の関係を大切に

亜東親善協会の六十周年を
心よりお祝い申し上げます。
六十周年の両国親善発展の
為、先人のご努力はもとよ
り、協会会員の皆々様のご
功績に深甚な敬意を表しま
す。

私が当選致しましたのは、

約三十年前になり、真つ先に
加入したのは日華議員懇談会
でありました。沢山の議員連
盟がありましたが、躊躇無く、
一番に加入いたしました。

その頃の日本では台湾、中
民国には大恩があり、日本人
としてこの事を決して忘れて
はならないと、教えられて居
りました。

日本が大東亜戦争に破れた折、
中華民国台湾の蒋介石総統に
大恩があるということでした。

一つは天皇制の維持に大貢
献をしてくれたこと、天皇を
戦犯にという話がありました。

一つは中国大陸に居た日本
人同胞を五百萬人、本国に無

事帰還させてくれたこと。

一つは日本の分割統治案に
反対してくれたこと、日本を
四分割するという案があった。

一つは膨大な戦後賠償を放
棄してくれたこと、最大の賠
償を要求出来る権利を有して
いたにも拘わらず。

以上の四つは日本の戦後に
とつて如何に大きな効果があ
つたか、このことを日本人と
して感謝すべきだ。私もその
通りと率直にそのことを認め、
感謝の心を持ちました。

そこで国会議員として最初
に訪問したのは、中華民国・
台湾でありました。あの頃の

桃園飛行場に到着すると、全
員で蒋介石総統のお墓(陵寢)

にお参りをし、花環を捧げ、

中国式儀礼により正式参拝を
したものです。これが当たり
前のことでした。参拝後、台
北に向かったものでした。

このお参りは相当長い期間
通じて行われ、其の後亡くな
られた蒋介石総統のご子息の
蔣経国総統のお墓も合わせて
必ず参拝したものです。それ
が段々と行われなくなる様
になりました。

今、振り返ると国民党政権
から民進党政権に替わり、
台湾の人々の蔣総統に対する
意識の変化が如実に反映され
た結果ではないかと思われま
す。

日程が大きく変わり、直接
に空港から台北に向かうルー

トになってしまいました。



と受け止める様になり、お墓参りをしなくなってしまうしました。

しかし我々、日本人が忘れてならないのは、色々な理由をつける人が、異論を唱える人が日本人サイドにも居りますが、前述した四つの事は歴史上、明確なことであつて、日本人としての報恩の心を失わないことであると考えます。

台湾の人々には大陸から台湾に逃れて来た政権の忌まわしい想いであり、数々の事件があつて、大きく意識が変化した結果だと思ひます。段々と私達もそのことを当然

の安定的確立はどうしても大切なことです。

亜東親善協会もその発足から考えると、この六十年間、日台間の友好親善発展の為、不断の努力を傾注して来られました。私はこの期間の協会の歴史は両国にとつてとても大切なものであつたと確信して居ります。

戦後台湾は自由を確立し、総選挙を民主的にを行い、憲法を一部改正し、民主主義国家として立派に自立しています。そして貿易立国の日本にとつて台湾海峡の安定は絶対に必要なことですので、日台関係

日本と台湾を取巻く環境は一党独裁の共産国家に囲まれていると言つても過言でありません。常々台湾を狙っている共産中国、核爆弾を有している北朝鮮、軍事大国といわれるロシア、日本も台湾も決して油断をしてはなりません。

自由の尊さをしっかりと共有し独立を維持し、平和で強力な国家をお互いに構築して行かねばなりません。

東アジアの将来を考える時、日台の強固な連繋が必要不可欠です。その為にも亜東親善協会の活動は重要であります。

私は日華議員懇談会の会長として、亜東親善協会の皆々様としっかり手を結び、両国の発展親善の為に全力を傾注して参りたいと思つて居ります。亜東親善協会の今後益々のご繁栄を心よりお祈り申し上げます。



社団法人亜東親善協会副会長

参議院議員 大江康弘

中選挙区制度再考の時期

亜東親善協会創立六〇周年を心よりお祝い申し上げます。

玉澤会長はじめ歴代の会長役員の皆様、又、会の目的にご賛同賜り永年にわたりご協力頂きました皆さま方にも心より感謝と御礼を申上げる次第です。

人間社会で最も大切なことは人権です。

一人一人の人権を大切にしながら国家を造り上げていく、そ

のための仕組みとして自由・民主・法治主義この価値観が失われると人々は、幸福な生活は出来ません。

大切な価値観を今日まで共有しながら日本と中華民国(台湾)は信頼と友情を築いてまいりました。日本にとって大切な国、中華民国(台湾)であります。

同時にその基盤を守り続けてきた背景には、戦後大筋において正しい政策を作り上げてきた自由民主党の存在があります。

私が最近、大変危惧すること、その政治体制が変わるのではないかということ。もし、ここで国家観の無い、あまり台湾という国に興味を示さない政党が政権をとるようなことがあればという事です。今日の日本の政治の混迷の大きな原因は後述することにあると私は思っています。皆さん考えてください。

このことを根本的に改めない

大選挙区制で秘密投票となり被選挙権の納税要件は撤廃されたが選挙権は直接国税一〇円以上の納付者男子と制限されていた。有権者数は約九八万人、人口の二、二%であった。

日本の選挙制度を振り返ってみると明治三二(一八八九)

その後、大正に入り制限選挙の撤廃運動が広がり、大正八(一九一九)年に選挙法が改正され、二度目の小選挙区制度となり、直接国税三円以上の男子と緩和され、昭和に入ると第一六回衆議院議員選挙で最初の男子普通選挙となり、有権者は三三〇万人から一二四一万人と一挙に約四倍となった。

年、大日本帝国憲法が公布され、衆議院議員選挙法も公布された。但し、選挙権を認められたのは満二五歳以上の男子で直接税一五円以上の納付者という制限されたもので「制限選挙」であり記名投票・小選挙区制でスタートした。

ちなみに女子について触れてみると一八四八年に男子を認められたフランスも女子は一九四四年、アメリカは、一八七〇年に男子、女子は一九二〇年、イギリスは一九一八年に男子一九二八年に女子、ドイツは、一八七一年に男子一九一〇年に女子。

その結果、翌三年に行われた初めての総選挙の有権者数は約四五万人、人口のわずか一、一%であった。明治三三(一九〇〇)年に衆院選挙法が改正され、

日本は一九二五年の男子に選ばれること一〇年、一九四五年終戦後に婦人参政権が実現。同時に大選挙区制限連記制でスタート。昭和二二（一九四六）年の第二二回衆議院選挙で完全普通選挙が始まった。

そして、平成六年、細川連立内閣当時に今日の小選挙区制度が三回目として誕生。今日まで続いているが、この小選挙区制度が「ねじれ国会」の元凶である。

一体この小選挙区制度なるもの、本当に日本の政治風土や国民性に合致したものであるのでしょうか。また、なによりも訴えたいことは導入した一六年前に果して、二大政党制を作り上げねばならぬ必然性があつたのであろうか？

今こそ我々は歴史に学び、教訓とせねばならない。

元来、この二大政党制を手本とした英国、アメリカはどんな歴史的必然性を持つて作り上げてきたのか、そもそもイギリスは強い階級社会であり、アッパークラス（上級社会）の利益を代弁するのは保守党、また、低層階級や新興階級の利益代弁者は自由党であり、のちの労働党と、国内においてかなり階級層の対立があつた。

また、アメリカは国家建国時まで逆上り国家理念で分類される。一つは建国時の白人入植者によつて作り出された個人主義的、自立的で宗教的な国家とする見方と、もう一つは多様な民族の複合した大きな共同体とする見方の二つであり、前者は共和党、後者は民主党を支持する。これらが、二大政党制の必然的誕生の基盤である。

このような二大政党制誕生の必然性を考えてみた時、果して、

我国には、この制度を導入した当時、必然的な基盤が存在したであろうか。一六年前といえ、一九九〇年にソ連が崩壊し東西の冷戦構造が終結、それまでの共産主義という思想もほぼ消え去り、自由主義陣営 対 左翼主義陣営という、思想対立は無くなつていた。

五五年体制といわれた昭和三〇年代であれば、自・社対立でかろうじて二大政党制を主張する政治的基盤は存在したが、この三回目の小選挙区制度導入時の時代背景において、無理矢理、二大政党制を作り上げねばならない必然性や必要性や理由は全くなかつたのである。

にも関わらず、こんな制度が作り上げられていった背景には、当時の「政治改革をしなれば」という作られた空気を上手く利用し、自らの政治基盤を維持さ

せようとした、小沢一郎という人の深謀遠慮があつた。

国民も永田町も、うまく丸めこまれ、あたかも「二大政党制ができれば政治が良くなる」「そのため小選挙区制度を導入すれば政治は変わる」とまるで暗示にかけられたように、あれよあれよという間に今日の小選挙区制度が出来上がってしまった。もう一度言おう。

特定の政治家の権力維持の手段（ツール）のために、無理矢理引っぱり出された「小選挙区制度」という新しい物好きの日本国民が飛びつきそうな言葉、これをたくみに使つたのが当時の小沢一郎という政治家である。

当時を振り返つていただきたい。当時の永田町（日本の政治の場）において権力を欲しいままに政治を動かしていたのは自民党の旧田中派 経世会である。

その経世会で派閥の跡目争いが始まり、敗れたのが小沢派、経世会の権力争いに負けるという意味は「自民党には残れない」ということ、子供ではないから「ケンカに負けたので自民党を離党します」とは流石に小沢氏も言えない。

そこで、彼が得意とする大義名分作りが始まる。それが「政治改革」という動作でありその中身こそが、国民の耳に新しい「小選挙区制度」への移行。これだけで、国民は「何か政治が変わる」「政治に期待を持てる」と勘違いをし、錯覚をおこした。

小沢の技ありである。

当時「小選挙制がどんなものなのか」「どんなに良いのか、悪いのか」など現職の政治家も含めて、評論家やその他誰も知る由はない。それもその筈で、こ

の前に経験したのはなんと大正八年、経験者のほとんどは泉下の先人、そんな事は考える余裕もなかったのが、当時の政治状況であった。

今更ながら、こんな不必要な必然性のない制度を導入したことが悔やまれる。

正に不幸の始まりである。

今、二大政党制とやってきたにも関わらず、政党公党は七つ存在する。しかも「政界再編」などと叫ばれている状況は二大政党制どころか、その根拠である小選挙区制度自体が否定されているのである。

さして変わらない(対立軸がほとんどない)二つの大きな政党が選挙の得票を争う事になるとどうなるか?当然、大衆に向けて耳障りの良い、また、効果的な演出やイメージが先行して

政策論争どころか、人気主義ポピュリズム)に向かつて衆愚を繰り返していく結果、政治的混乱を招いていくのである。

意味の無い世襲制限の禁止を言ってみたり、自らの党の代表が招いた政治資金規制法の違反も充分国民に対して説明もしないばかりか、挙句はその法律を破ったことの反省もなしに「その法律があるからこんなことになる」などと本末転倒のような言い訳で今度は「企業献金の禁止」と、自由社会、資本主義社会をしつかりと構成する企業にまで政治参加の道を閉ざしてしまふなどと言うことは、正に形を変えた「言論封殺」でありこれほどの独裁的ポピュリズムはないであろう。

意味のない二大政党制を求めて導入した小選挙区制の慣れの果てである。

この上は、一日でも早く中選挙区制に戻し、それぞれの選挙区において、有権者にもっと多くの選択肢を与えれば、政治に緊張感もでて、何よりも地域が活性化していくことは間違いない。戦後六十有余年経ち、有権者は立派に自らの意思を持っている。わざわざ、世襲禁止などと法律で決めなくても、ダメな政治家は淘汰されていく。

そのためにも、早く有権者に広く選択肢を与える中選挙区制に戻すべきである。

以上申し上げましたが、とにかく、我々は日・台の二国間の関係は何があっても守り続けていかなければなりません。玉澤会長のご指導を賜りながら日・台友好の目標に向かって頑張って参る決意です。



衆議院議員 大野功統

私の中の台湾

台湾はわがふるさと

私は、台湾で生れた。昭和
一〇年のことである。おやじ
もおふくろも香川県の西端、
豊浜町生まれの豊浜町育ちで
ある。田舎育ちのおやじが、
なぜ、大阪外国語専門学校フ
ランス語科を選んだのかは、
わからない。しかし、フラン
ス語科を卒業したおやじには、
不況当時のふるさと香川では、

就職先はなかったようである。
やむを得ず、台湾総督府勤務
の道を選んだ。もちろん下級
役人である。

祖父が、昭和一五年、亡く
なったので、私たち家族は、
葬儀のため日本へ帰った。父
は葬儀を済ませて直ちに台湾
へ戻ったが、母と姉と私の三
人は、そのまま祖母と共に豊
浜で暫く暮らすこととなり、
私たちが台湾へ戻ったのは、
昭和一六年の秋、日米開戦直
前であった。

従って、私の中の台湾の思
い出は、祖父の死亡の前後で
全く異なるものとなる。

祖父の死亡前の台湾の思い
出は、おおらかで楽しいもの
であった。

いまでも思い出すのは、私
が高校生の頃であるが、母が
よく言っていた。「ヨシちゃん

（私の名前はヨシノリである
のでヨシちゃん、と呼ばれて
いた）が丈夫に育ってきたの
は、台湾で毎日アヒルの卵を
一個食べていたからよ」なる
ほど、私が丈夫なのは台湾の
アヒルのお蔭である。また、
毎日、近所の友達とどじょう
をすくったりして遊んでいた。
隣近所は、みなおおらかな
方々ばかりで、ドアにカギも
掛けずに外出をしていたよう
だ。そのような家に勝手に上
り込んで、テーブルの上のお
菓子もいただいていた。黒板に

「ヨシノリが食べました」と
書いて帰った。ご近所のおば
さま方も、そんな私を井戸端

会議の話題にして、ケラケラ
と笑っていたようだ

しかし、戦争が始まってか
らの生活はがらりと変る。

小学校三年の時に台北市幸
小学校から、山奥の学校（ど
こであったのかも現在わから
ない・父母が死亡。その後の
友人もバラバラになってしま
い行方不明となっているから
だ）へ疎開した。疎開先では
講堂に百人ばかりの友人と布
団を並べて、先生と一緒に生
活した。

朝昼晩、にぎりメシ一個ず
つの食生活。午前中勉強はす
るが、午後からは、近くの川
で魚とり。とった魚が晩ごは
んのおかずとなった。私は空

腹に苦しみ、便所の窓から、地元の子供たちが食べていた餅と、自分が持つてきた下着を交換したこともあった。

このような生活の中で、私はアメーバ赤痢にかかった。そこで、集団学童疎開の場から、今後は、母や姉が疎開している地へ移動した。その場所がどこかも、今はわからない。

昭和二〇年、八月一日から、翌年の四月まで、学校は完全に閉鎖。学校での勉強の機会はまったくなかった。

昭和二十二年四月からは補仁小学校が開校、引揚げていない日本人の子供たちの勉強の場が復活した。おやじは、中国側に徴用されて残務整理の

ため昭和二十二年末まで台湾に居残ることとなったのである。

○平和の誓い

週に二回は、中国語の授業があった。習ったばかりの中国語は現実にも役立った。というのは、道端にムシロを敷いて、どうせ日本へ引揚げるのだからと、不要となるわが家の家財道具を並べ、大陸本土からやってきた中国の兵隊さんに、片言の中国語を使って売っていた。

しかし、台湾からの引揚げは、満州、朝鮮からの引揚者に比べれば厳しいものではなかった。引揚げで持つて帰れる荷物は、一人当たり（子供も含めて）行李一個とトラン

ク一つである。それほどの荷物もなく、わが家では、行李の中に台湾餅をたくさん入れて日本へ持つて帰った。

○国際関係を支える人間関係 今日、日本と台湾の関係を考える時、我々にとつて最も素晴らしいと思うのは、台湾の方々の対日感情である。それは、当時の日本の台湾政策の在り方によるところでもあったのであろうが、私は、当時から人間関係が支えているのではないか、と信じている。

台湾総督府時代のおやじの友人と、私は未だに交友関係が続けている。私が台湾を訪れるたびに、一緒に食事をし、おやじの思い出話に花を

咲かせる。

国際関係を支えるのは人間関係だと、つくづく思うところである。

○台湾海峡の平和的解決

私が、防衛庁長官をしていた頃、ツー・プラス・ツー（アメリカと日本の外務大臣と防衛大臣計四人で話し合う公式の場）の公式文書の中で、

台湾海峡の平和的解決という文言が使われた。私にとつては問題点の当然の指摘であり、記述であると考えていた。台湾海峡問題は、日本の平和と安全に当然影響するからである。しかし、台湾関係者の評価は違っていた。公式文書で「台湾海峡」問題が記述されたのは始めてだという。私は

台湾の立場に思いをいたし、さまざまなことを考えさせられた。

中国と台湾との関係は、ぜひ平和的に解決してもらいたい。しかし、私がここで強く申し上げたいことが二つある。

一つは、私の台湾の思い出は戦争の思い出でもある。そして、同時に、ひもじさの思い出でもある。だからこそ、私は政治家として、絶対に平和を守るために働かなければと思う。終戦後台湾で、先生が言ったことを思い出す。「平和を守る。これができるのは、戦争の経験もあり、未来の日本を背負って立つ君たちの仕事だ」私は今、名前は忘れてしまったが、この先生のこの

言葉だけは覚えている。

もう一つ、国際関係は人間が支えるもの。留学生は、未来からの大使である。多くの若者が、外国から、台湾から日本へ来て貰いたい。多くの日本の若者が、外国を訪れてほしい。人間同志の交流が国際平和の礎である。

○普遍と固有

だからと云って、私は、グローバルゼーションの中で日本や台湾の持つ固有のもの、特色をなくすべきだと言っているわけではない。それは、国内問題でも同じことだ。構造改革という世の中の仕組みを効率化していくことは必要なことであるけれども、同時

に、個々の持つ特色は、堅持していかねばならない。国際社会も国内社会も、「共存と棲みわけ」の思想でなりたつものと考える。

仏教の言葉に「自利利他」ということがある。やや自由に解釈すれば、他人に利益を及ぼせば、自分の利益にはね返ってくる、とすら言える言葉である。グローバルなものとローカルなもの、ハイテクとローテク、大きいものと小さいもの、発展と安全など、概念の違うものが共存できることが社会、特に国際社会には必要だ。その第一歩が、違うもの、異なる人を知り理解していくことではないか。

台湾と日本の関係は、あらゆる面で、日本と欧米ほどの違いはなく、おおらかさの中で、また、人間同志のぬくもりの中で理解が進んできたのではないか。

国際社会の中で共存していくためには、良い意味でのダブルスタンダードが必要だ。このダブルスタンダードを乗り越えていくには、言うまでもなく、相手を知り、理解し、暖かい心で接する人間力が必須である。

国際社会の中の台湾の立場が、この人間力により確固たるものとなることを、心からお祈りする次第である。



参議院議員 山本順三

社団法人亜東親善協会

創立六〇年を祝う

本年は、亜東親善協会の前身である「華南倶楽部」の設立から通算して六〇周年を迎えられるとのこと、心からお喜びを申し上げます。

長きにわたり、民主主義と

自由経済を信条としてアジア地域の平和と安定に寄与し、我が国と台湾との友好親善に多大な貢献をなされてまいりましたことに改めて敬意を表しますと共に、歴代の会長をはじめ役員の皆様方のご努力に対し衷心より感謝申し上げます。

この間、日中国交正常化に伴い、日台関係は日中共同声明に従い非政府間の実務関係として維持されております。財団法人交流協会と台湾の亜東関係協会を窓口として交流を図ってまいりましたが、亜東親善協会の果たした役割も

重大なものがありました。

私も一昨年に訪台した際に日本の新幹線システムを導入した台湾高速鉄道の高雄―台北間を乗車しました。新幹線以上の快適な乗り心地を体感したと同時に、改めて親密な日台関係を実感することができました。様々な課題も抱えております。

さて、最近の日台関係をみますと、台湾の馬英九総統が誕生して一年が経ちました。そのような中、昨年末の三通実現で台中交流は加速の一途をたどっております。

世界的な経済危機をきつ

けとして、台北で開催された国際経済危機会議では、経済学者の間で「日米台」の三角関係より「中米台」の新たな三角関係を重視する発言があり、「ジャパン・パッシング」の現状を実感するには十分だったと報じられています。

このような中で馬政権としては、今年を「台日関係促進年」とし、日本を「特別なパートナー」と位置づける配慮を見せておられますが、日本の対アジア戦略が分岐点にさしかかっていることは間違いないようです。

私たちは玉澤徳一郎会長を中心にして、台北駐日経済文化代表處の馮寄台代表を通じて、十分に連携を図りつつ、

この新たな社会環境の中にあつて、日台の特別な関係の重要性を鑑みて、より一層の交流を深めていくべきと考えています。

また、今年八月にはアジア・太平洋国会議員連合（A P P U）第四〇回総会が台湾にて開催されます。私も日本議員団事務局長として参加することをしています。

A P P Uは志を同じくするアジア・太平洋地域の議会同

が参加しており、二一の加盟国と二地域の準加盟国、オブザーバー一カ国で構成されており

もちろん台湾も加盟国の一

員であります。近年、アジア・太平洋地域をめぐる国際情勢は大きく動いており、一方では国際テロ活動の活発化に加え、北朝鮮の核開発問題など地域内の平和や安定を妨げる要因が増加しております。

A P P Uの一層の貢献が期待されております。昨年は奈良県で第三九回総会を開催いたしました。その際、台湾のW H Oオブザーバー参加につ

いての決議を致すべく努力をしましたが、残念ながら合意に至ることができませんでした。しかし、本年には台湾のW H Oオブザーバー参加が実現しました。

おりしも新型インフルエンザが発生して世界中で猛威をふるっている時であり、アジアの一員として公式の場で情報交換ができますことは誠に意義深いことであります。

今回は、主催国としての台湾の活躍を楽しみにしておりますと共に、私たち日本議員団も大いに協力をして、活発な議論がなされ、大きな成果

が上がりますよう努力致します。

終わりに亜東親善協会が益々発展いたしますと共に、会員の皆様方のご活躍と交流協会をはじめとする関係団体の繁栄をご祈念いたします。また、私も微力ではありますが、玉澤会長のご指導をいただきながら、顧問団の一員として協会の発展のため尽力いたす所存でありますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



参議院議員 松下新平

台湾と日本

この度は、「社団法人 亜東親善協会」創立六十周年、

誠にありがとうございます。

玉澤徳一郎会長をはじめ

歴代役員の方々、並びに会員の皆様の御尽力に心から敬意と感謝を申し上げます。

私は、国会議員として、通

算一〇回訪台致しました。本年は三月七日、八日に訪問させて頂き、馬英九台湾総統や彭榮次亜東関係協会・会長とお話しさせて頂く機会を頂きました。

会話の中で、台湾で経済対策として実施され、非常に効果を生んだ「消費券」、日本でいう定額給付金について、成功の秘訣を伺うことができました。

それは、日本のかつての振興券、これを徹底的に研究した上で、三つの要因をお話いただきました。一つは所得制限を設けなかったこと、もう一つは旧正月前に実施できたこと、三つ目は商店街、諸関

係の方が商品開発をして盛り上げたとのことでした。支給当日には何と九一%の方がそれを受け取りにいられたということも伺いました。

その後の三月一二日に、NHKにてテレビ中継された参議院予算委員会にて質問の機会を頂きましたので、麻生首相に対し、これらの内容を紹介し、日本での定額給付金の有効性、また追加支援対策について意見を伺ったところでもあります。

これも日台友好関係の中から、台湾に学ぶところはしっかり学びながら国政に反映した一例です。

二〇〇九年五月一八日からジュネーブで開催された世界保健機関(WHO)の年次総会に、台湾がオブザーバーとして参加できたということは、新型インフルエンザが流行している今、人権問題という観点からみても、大きな前進であると思います。

二〇〇三年に中国で新型肺炎(SARS)が猛威を振るった当初、被害が台湾にも及んでいるにもかかわらず、WHOから情報や支援を得られなかったことは、同じ地球上に生きる人間として、普遍的課題であり、「すべての人民が可能な最高の健康水準に到達する権利」があるなか、非人

道的行為であったと思います。今回のオブザーバー参加により台湾の新型インフルエンザなどにおける感染症への国際的対応に大きな期待を抱いております。

強や旅行をして民間交流を深める制度ですが、次世代を担う若者の相互理解に多大なる期待を寄せているところであります。

日本の対台湾窓口「交流協会」が台湾人の対日意識に関

対日関係においても、二〇〇九年六月一日より、ワーキングホリデー制度が開始されたところであります。日本にとってワーキングホリデーを導入した十番目の国・地域となり、アジアでは韓国に続き二番目、台湾にとってはオーストラリア、ニュージーランドに次ぎ三番目になります。一八歳から三〇歳までの年間で二〇〇人が対象となり、一年を限度に、働きながら勉

する世論調査を行ったところ、約七割の人が日本に好感を抱いていることが分かりました。

「親しみを感じる」は六九%に達し、「親しみを感じない」の一・二%を大きく引き離しました。年代別では、二〇代が七九%、三〇代が七七%と若い世代が最も親目的で、六五歳以上は五八%でした。中学、高校、大学などでの日

本語学習者は二〇万人以上を上り、ワーキングホリデーを通して台湾に渡る日本の若者たちは、台湾の文化や歴史、技術など多くを学んでこれらの国際交流に役立てて欲しいと思います。

う調査結果が出ました。今後、一〇年後、二〇年後の世論調査でも変わらぬ友好関係の構築が求められます。

日本も台湾も世界不況の荒波に飲み込まれておりますが、

受け入れる側の日本は、台湾の人々が描く「経済力、技術力の高い国」「自然の美しい国」「決まりを守る国」「豊かな伝統と文化を持つ国」というイメージを崩さぬよう、一人一人が努力する姿勢が必要だと思えます。そして、「最も好きな国(地域)」を尋ねた質問でも、日本が三八%と、五%のアメリカ、二%の中国、三%の台湾までも抑えたとい

このような時代だからこそ、双方、国の政権の考え方や方向性を理解し、日台友好へ不断の努力をする必要があります。そうすることで互いに経済危機から一刻も早く抜け出せるよう協力していきたいと思っております。

最後になりますが、亜東親善協会の益々のご発展と会員皆様方のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。



衆議院議員 赤池誠章

NHKシリーズ

「JAPANデビュー」

アジアの一等国を考える

四月五日（日）NHKで「シリーズ・JAPANデビュー」第一回「アジアの「一等国」」が放映されました。

番組の企画趣旨は「一八九五年（明治二八）年、日清戦争に勝利した日本は、台湾を

割譲され、初の植民地統治を始める。

英のインド統治やフランスのアルジェリア統治にならない、植民地をもつことで「一等国」をめざした日本。一九一〇年、ロンドンで開かれた日英博覧会では、台湾のパイワン族を

“展示”し、統治の成功を世界に誇示する。日本は『格差と同化』という矛盾した台湾統治を続け、一九三〇年代後半からは『皇民化運動』で日本文化を強制する。

半世紀におよぶ統治はどのように変遷していったのか。二万六千冊に及ぶ『台湾総督府文書』、近年発見されたフィルム、欧米に埋もれていた文書などを手がかりに近代日本

とアジアの関わりの原点を探っていく。」というものです。

私はこの番組を観て、偏向しており、今後の日台関係にヒビを入れかねない非常に憂慮しました。

番組の問題点はいくつもあります。代表的な問題点を挙げれば、日英博覧会に参加した台湾のパイワン族の集合写真を放映し、「人間動物園」とキヤプシオンをつけたことです。その写真を見せられた子孫と思われる方々は、とてもひどい扱いだと涙するシーンが放映されるのです。

当時の資料には、以下のよ

うな展示がなされたことが明記されています。（日本政府公式報告書『日英博覧会事務局事務報告』より）

一、会場内に日本家屋数軒を建築しその内に於て日本物品の製作実演すること

二、パノラマ的なる我田園の模型

三、アイヌ村落

四、台湾蕃人の生活状態

五、本邦演劇

六、獨樂曲藝、手品、雀藝、水藝など

七、活動写真

八、要馬術

そして、その他、余興として、柔術や相撲も披露されており、喝采を浴びたとされて

おります。台湾のパイワン族が博覧会場で寝泊りしたのは、本人たちの希望です。暮らしぶりの展示が「人間動物園」

であるならば、それ以外の日本の催し物すべてが「人間動物園」となってしまうし、今でも続く博覧会そのものが「人間動物園」と言っているに等しいからです。

NHKは日本が台湾の方々を動物のように扱ったひどい国だと印象操作をしたらしいのです。そして、そういう放映は、NHKが台湾に対して、民族差別をしているという逆証明になると思います。

以上は一例ですが、それ以外にも「日台戦争」「改正名」

「漢民族五〇〇万人」などなど、いくつも歴史的事実として、疑問の起こる言及があります。

日本の悪い点が強調され、日本が台湾統治で行った基盤整備などの良い点がまったく放映されていないのです。極めて悪質な取材と放映と言わざるを得ません。

NHKには、この番組をみた視聴者から批判が巻き起こりました。NHK「視聴者対応報告」によれば、反響は二九二四件(好評意見一一九件、厳しい意見一九四五件、その他二八〇件、問い合わせ五七〇件)に上ります。それだけ視聴者からの批判があるにも

かわらず、NHKは開き直るような発言しかしていません。

「番組は開国一五〇年というタイムスケジュールの中で欧米列強を手本に近代化を進める日本の姿を描いた。一つの番組の中だけで全ての要素を平等に伝えるとストーリーがなりたたない面があるし、クリアに伝えられない。

多角的な放送かどうかは放送全体で考えるべき。台湾総督府に残された膨大な資料を読み解きながら取材を進め、インタビュについても恣意的な編集をしたことは一切無いと聞いている。そういう考え方について理解を得ながら

番組を伝えて生きたい」
(四月二二日放送総局長記者会見より)

NHKは公共放送です。日本の視聴者の受信料から成り立っており、そのNHKが日本の歴史と国家の名誉を傷つけ、日台親善に反するような番組制作を行ったことは、大変な問題です。

NHK「JAPANデビュー」。「アジアの一等国」は放送違反であり、日本の国家国民のため、日台友好促進のために、今後しっかり追及して、同番組の是正を求めていきます。



衆議院議員 高鳥修一

祝 亜東親善協会六十周年

亜東親善協会創立六十周年を心よりお慶び申し上げます。

私は日台若手議連の発起人メンバーで、台湾の若手議員との交流もごさいます。日頃より日台親善に思いを強くさせていただいておりますが、

平成一八年に訪台した折、

李登輝先生にお会いすることができ、現代の日本人より日本を愛し国を憂うるお言葉に感銘を受けたひとりでございます。

このたびWHO総会に台湾がオブザーバー参加されたことは非常に喜ばしいことです。今回の新型インフルエンザ対策など必要な情報が直接WHOから得られ、早期対応と関係諸国との連携がスムーズになされることは台湾一国のみならず日本をはじめ諸外国にとっても重要なことです。

昨年一月「全日本盲導犬使用者の会」の方々が訪台することになり、お手伝いをさ

せていただきました。台湾の盲導犬協会の皆様との交流が有意義に行われたとのことです。盲導犬の検疫手続きがとて面倒だというお話を聞きし、このような場合は参加者の負担を軽減するような措置がとられることが必要であると感じております。

ビジットジャパンキャンペーンが始まってから六年が経ちます。平成二二年には目標の来日一〇〇万人を達成する勢いです。台湾は二番目に来日者数の多い国です。平成二〇年度では台湾から日本へ

約一三〇万人、日本から台湾へ約一〇八万人が往来しています。二〇歳以上の日本人の

意識調査では日台関係が「良い」と回答七六%あり、台湾の皆様への熱い眼差しは良く知られていることです。両国の意識的な土壌は充分出来上がっています。

すでに「日台文化交流青少年スカラシップ」や「日台ワーキングホリデー」などの事業も行われていますが、国内の航空会社二社が七月から九月の燃油サーチャージを無料とすると発表し、交流がさらにグレードアップして行くことを望んでいます。

私の地元妙高地域は日本でも有数のスキートのメッカであり、イギリスの新聞「デイリ

「テレグラフ」が、世界の
スノーボードリゾートトップ
一〇という特集記事で妙高の
スキー場を六位にランキング
しその魅力を紹介しています。

アクセスが良く雪は多く地元
の温泉に浸かれば完璧なくつ
ろぎが味わえると絶賛されて
いますので皆様も是非おいで
になってください。

最近のNHKの番組（J A
PANデビュー）にみられる
ようなあまりにも偏向的な報
道に危惧を覚える立場から
「公共放送のあり方を考える
議員の会」が発足し、私も発
起人として名を連ねさせてい
ただきました。

この番組の内容は台湾を愛
する日本人にも日本を愛する
台湾の方にも看過できないも
のです。

日本統治時代に台湾での農
業、水利事業の発展に貢献し
た八田與一という土木技師が
いらつしやいました。別名
「八田ダム」と呼ばれている
烏山頭ダムを世界遺産にと台
湾で署名運動がスタートした
そうです。

この地域は現在も有数の穀
倉地帯です。八田技師は現在
日本ではほとんど知られてい
ませんが、海外で活躍・貢
献された偉人をもつと教科書
などで取り上げていただきた
いと思います。

自動車やITに代表される
工業立国としてのイメージが
先行している日本ですが、基
本的には農業国であり古来よ
りお米をととても大事にしてき
ました。

現在の高度な技術を支えて
いるのは手作りに優れた中小
企業です。この手作りの基本
が長年培った細やかな農業へ
姿勢だったと思います。そう
いった国民の持てる力を支え
るためにインフラや環境をし
っかりと整えるのが国の使命
と考えます。

このたびの世界的な経済危
機に対し日本の政府・与党は
緊急対策を打ち出しましたが、

その政策提言に私も一定の役
割を果たさせていただきました。
た。急激な経済の悪化は国力
のバックボーンとなる伝統・
文化の破壊も引き起してしま
います。

世界的不況からの脱却に日
台はじめ各国との経済対策が
うまく連携してゆくことを望
んでいます。

来る二〇一〇年は日台観光
交流年として位置づけられて
います。今後一層の日台の連
携の強化とアジアの平和と繁
栄に尽力して参りたいと存じ
ます。今後ともご指導賜りま
すよう宜しくお願い申し上げ
ます。



横浜市長 中田 宏

横浜一五〇周年を迎えて

(開港の歴史、現在、

そして未来への挑戦)

亜東親善協会設立六十周年、
誠におめでとございます。

この記念の年に寄稿させて頂
いていただきますことを大変うれ
しく存じます。

横浜市も本年開港一五〇周
年を迎え、去る五月三十一日

には天皇皇后両陛下の御臨席
を仰ぎ、麻生総理大臣をはじめ
めとする三権の長、さらに国
内外から多くの賓客を迎え、
パシフィコ横浜国立大ホール
において記念式典を執り行い
ました。

この式典には、台北市林建
元副市長、及び高雄市長林仁益
副市長のほか台北市議会、高
雄市議会からも数多くの方々
の御参加をいただきました。

来賓の方々の御祝辞に続き、
著名な演出家・宮本亜門氏に
よるオリジナルショーが上演
され、開港当時の外国文化導
入の様子、関東大震災や第二
次世界大戦の困難な時代、そ

して復興により今日の繁栄を
迎えるまでの一五〇年の歴史
が、歌や映像を織り交ぜ壮大
に再現され、最後にはこれか
らの発展にむけ、挑戦し続け
ようとの誓いで幕を閉じまし
た。

式典を通じ、多くの横浜市
民、海外諸都市の皆様ととも
に、開港以来の日本の歴史の
大きな節目を祝うことができ
たことは大変意義深いことだ
ったと思います。

このショーでも表現されて
おりましたとおり、横浜の発
展は外国人の方々の存在なく
して語り得ません。

特に華僑の皆さんは、異国

の地で新たなビジネスに臆す
ることなく挑戦し、横浜の歴
史において大きな役割を果た
してこられ、今でもその業績
は横浜中華街や、一八九七年
から続く横浜中華学院などに
見ることができます。

近年、横浜中華学院には、
中国語に関心のある日本人学
生の入学も増え、一〇〇年前
と同様、横浜からアジアへ、
そして世界へ羽ばたこうとす
る若者を育て続けています。

横浜市としても、こうした
世界に挑戦する人々たちを支援
するため姉妹・友好都市には
かに、具体的なテーマや期限
を定めてアジア地域を中心に

戦略的交流を行うため、三年前からパートナー都市の提携を行っていきます。提携先は現在、台北市をはじめとするアジア五都市で、それぞれの都市とより実践的な交流項目を取り決めて、事業を推進しております。

提携の成果として、台北市の松山空港をはじめとするパートナー各都市の空港と、再拡張工事が進む羽田空港との路線就航について、来年十月の供用開始にむけ、政府の航空関係者間で具体的な協議が始まりました。

本市ではこの羽田空港再国際化を第二の開港と捉え、新

たな一五〇年間の発展にむけて動き出そうとしています。また、今年九月には横浜が会長都市を担う都市間協力ネットワーク（CITYET）の総会が、来年秋には、AP EC首脳会議が横浜で開催される予定です。

こうした機会を捉え、経済、観光、文化、教育の各分野においてアジア各都市が一体となり発展するために、惜しむことなく協力していくつもりです。

今日まで、外国人をはじめ、多くの先人の努力にやっつけ築かれた横浜は、一五〇周年という節目の年を迎えました。

これからも社会の様々な場面で、外国人市民や、海外諸都市との協力関係を重んじ、世界の国々の平和と発展に貢献してまいります

そして人や企業から選ばれ
る都市となるよう常に挑戦を
続け、様々な施策を展開し、
未来を切り開き、みずみずし
く活気あふれた都市として歩
み続けていきます。





財団法人交流協会

理事長 島中 篤

社団法人亜東親善協会

設立六十周年にあたって

この度、亜東親善協会が設立六十周年を迎えられたことに対して、心よりお祝い申し上げます。

ご承知のとおり、亜東親善協会は一九四六年の設立以来、我が国と台湾との友好親善関係の増進を図るべく、様々な交流活動や支援活動に取り組んで来られました。

今日の友好かつ良好な日台関係は、亜東親善協会をはじめとする多くの関係者の皆様の永年にわたる不断の努力に培われたものであり、これまで亜東親善協会が日台関係の友好・発展のために多大な貢献をされてきたことに対して、心より敬意を表します。

この六十年間、日台間の友好交流は様々な分野で着実に発展して参りました。特に近年は、日台双方の短期滞在(九〇日間)査証免除措置や運転免許証の相互承認、地方都市への定期航空路線の就航等により、日台間の往来は大変便利になりました。

その上、日本と台湾は至近距離にあることから、終末や連休を利用した観光客も大幅に増加しており、いまや日台間の人的往来は年間二五〇万人に及んでおります。

更に、本年六月に日台ワーキングホリデー制度が導入されたことから、今後、日台双方の若者世代の往来が益々増加することが期待されております。

また、昨年台湾で大ヒットを記録した『海角七号』(日本統治時代の日本人男性と台湾人女性の恋愛をモチーフにした映画)や、本年五月に日本で公開された『パッテンライ！』(日本統治時代に台湾の烏山頭ダムの建設に尽力した日本人技師。八田與一氏を

主人公とするアニメ映画)等、日台間の強い感情的な結びつきを象徴する映画が上映され、

日台双方の多くの方々の日台間の深い歴史的・人間的なつながりを再認識されたのではないでしょうか。

昨年就任された馬英九総統は、このように人的、地理的、歴史的にも緊密な関係を持つ日台関係を「特別なパートナーシップ」と呼び、特に本年を「台日特別パートナーシップ促進年」と位置づけ、経済、貿易、文化、青少年、観光、対話の五分野における日台間

の交流を全面的に推進する旨表明されました。

既に各々の分野で具体的な計画が進められており、例えば青少年交流については、昨年度当協会が台湾の高校生一〇〇名を招聘したのを受け、

台湾側も本年一〇〇名の日本の高校生を台湾に招聘し、高校生同士の交流やホームステイ等の体験を通じて、相互理解を深めることが計画されています。

台湾には、日本のポップカルチャーに高い関心を持つ

「哈日族」(ハリーズ)と呼ばれる日本好きの若者が多数いますが、こうした若い世代の方々に日台関係の重要性やお互いに対する正しい認識を持つてもらおうことが、将来の日台関係にとり重要であると考えております。

昨年当協会が台湾において実施した調査によれば、台湾の人々が最も好きな国は日本であり、約七割の方々が日本に対して親しみを感じています。また、台湾側が日本において実施した調査では、約六五%の日本の方が台湾は信頼

できると回答しています。このような日台関係を維持・発展していく上で、亜東親善協会が果たして頂ける役割は益々大きくなっていくものと確信しております。

最後に、亜東親善協会の今後の益々の御発展と、日台関係の更なる飛躍を祈念し、六十周年にあたっての祝辞とさせていただきます。



財団法人台湾協会

理事長 齋藤 毅

「忘れられない」と

「仲直りしなければ」

昨二〇〇八年(平成二〇年)十二月十四日の東京新聞に「犠牲者の追悼式典」として、中国の「南京大虐殺記念館新装一年」と台湾の「七脚川事件から一〇〇年」の記事が並んで載っていた。

前者には「苦難忘れられない」とあり、後者には「仲直りしなければ」と書いてある。

七脚川事件とは、明治四十一年に、七脚川(チカソワン、現在の台湾花蓮県吉安郷)周辺で発生した原住民の武力蜂起事件である。原因は高姿勢な理蕃政策と複雑な人間模様にあると言われて居るが、穏健と思われたアミ族の反乱に衝撃を受けた総督府は、彼等から銃器を没収して狩猟中心の生活から農業・水産業中心の生活に転換させるべく、もっと緩やかな地勢の平地や海岸付近に移住させた。

跡地には日本から四国吉野

川流域の人々が入植して「吉野村」を作り、一九一七年(大正六年)には宗教施設として「吉野布教所」が建立された。

布教所は戦後、慶修院と改称され、廃屋同然に寂れた時期もあったが、一九九七年には第三級古蹟に指定され、更に二〇〇三年に花蓮県政府によって復元され「完整的日式寺院、建築彷彿高野山総本山金剛峰寺御影堂」と紹介されている。門の横には「和好(仲直りしよう)」と書かれた額が在る。

御本尊は、観世音菩薩と弘法大師(空海)で、弘法大師像は戦後日本に持ち帰られて

居たが二〇〇四年に五十八年振りに此処に復帰した。

私はこの復帰開眼式典に参列した縁で今回の式典に招かれ、更に「七脚川事件一百年記念研究会」にも参加した。現在、慶修院の境内には托鉢する弘法大師石像が佇む外、周囲の塀には柵が設けられ、四国巡礼八十八ヶ所の御本尊(石像)が寺名と共に配置されている。

「式典」は広島長命蜜寺 佐伯憲秀住職(八十四歳、此寺で生まれ育った)及び京都和泉寺 田中智岳住職を中心とする日本人僧侶により執り行われた。

ところで、台湾の歴史は開拓の歴史であり外来政権への抵抗の歴史であると言われる。

汗と涙と血の歴史と表現する人も居る。確かに台湾の歴史は、暴風雨や風土病等過酷な自然との闘いであり、又、此の島に辿り着いた人々の対立・抗争と停戦・和解の歴史である。

歴史を遡れば、原住民の人達も由来はいろいろで、遠い祖先の地もまちまち、住み着いた時期も新旧まちまちであるから、当然軋轢があり、相反目して激しい闘争を繰り返したであろうことは想像に難くない。その過程で、圧迫さ

れ、命からがら黒潮に乗って日本に辿り着いた人達が日本人の祖先の一部にもなっているであろう。

世界各地の諸民族が夫々昔々の生息地域に於いて原始的生活を続ける方が幸せなのか、それとも所謂文明社会の仲間入りをする方が幸せなのか分からないが、時代が下るにつれて孤立した生活を続けることは許されなくなり、各地で繰り返し軋轢が生じてきた。

過去に於いて、中原の民族が如何に周辺の民族を冷酷に屈服させて勢力を伸ばしてきたか、西力東漸の過程でどれ

だけ多くのアジア人・アメリカ原住民が泣いたか、帝国主義列強がどれだけ多くの有色人種を搾取したか、哀しい事件は枚挙にいとまがない。それらの出来事が起きる度に悲運に散って逝った方々は洵にお気の毒であり、深い同情と悲しみを禁じ得ない。

しかも現在でも、強力な軍事力による威圧や理不尽な異民族圧迫は続いている。そして、我々は為す術を知らずに呆然と立ち竦み、国連も有効な対策を執れずにいることが少なくない。

追悼式典に参列した現在の部落頭目ローオフ・カサウ

(七十三歳、日本名・村田次郎)さんは慶修院の近くの集落に住んでいるが、「事件の話をすると日本人も悲しむから余り言わない方がいい。仲直りしないといけない。愛と平和と忍耐で過去の怨念を捨て傷痕を癒すべきだよ」と語る。

七脚川事件のあった現在の吉安郷を舞台とする歌「吉安吉祥安康」(詞・黄韻齡、曲と唱・劉翰安)の歌詞にあるように、此地は勿論、世界中が「多元族群人情善美 吉祥安康好所在」であることを祈つて已まない。



社団法人亜東親善協会顧問
元拓殖大学総長 小田村四郎

台湾はどこへ行くのか

大東亜戦争の敗戦の結果、我が国の版図を離れた台湾は、長く蒋介石の国民党政権の統治下に置かれたが、東西冷戦が激化する中で常に西側陣営に属してゐた。

冷戦終結後も李登輝總統時

代に民主化、自由化が大幅に進展し、我が国や欧米諸国と価値観を同じくする自由民主主義国家として発展して来た。

この間、日台両国間は不幸にして一九七二年以来外交関係が断絶したが、民間同士はの交流は逆に年々活発となり、国民感情もまた相互に親密さの度を加へてゐる。

しかし昨年、馬英九氏が總統に就任し、国民党政権が復活するや、対中接近が顕著となり、中台交流は三通実現から進んで経済協力協定締結まで視野に入つて来たという。このような急激な情勢変化に対し懸念する台湾国民は少なくないと聞

くが、私もまた深甚な危惧を抱かざるを得ない。

中華人民共和国（中国）が共産党一党独裁の非民主国家であることはいふまでもないが、この国は一衣帯水の台湾にとつて決して普通の非民主国ではない。

建国当初から台湾は自国の不可分の領土であると宣言し、これに応じない場合には武力で台湾に侵攻してこれを併合すると公言してゐる国である。しかも異民族であるチベットやウイグルに対しては呵責なき弾圧を加えて制圧してゐるのみならず、民主化を求める自国民に対してさえ血の弾圧

（天安門事件）を行った。

また独裁国家であるから瞬時に行動を決断できるし、平常時でもさまざまな工作活動を行つてゐる。このやうな国家と接触する場合には、凡ゆる対策を備へつつ慎重にこれを行ふのが主権国家の外交常識であらう。

今の台湾政府の対中接近行動は自国の併合を国是としてゐる恐るべき隣国に対し、余りに無警戒、無防備ではないか。馬政権は対中交渉を始めるに際し、中国がその前提とする「一つの中国」原則に合意した。

これは一九九一年の兩岸對話の際の合意事項であり、その解釈が双方で異なるだけだと称してゐる。

(しかし当時の総統であつた李登輝氏はそのやうな合意は存在しなかつた。と明確に否定をされてゐる。)

その異なる点は台湾のいふ一つの中国とは「中華民国」を指すのだといふ。しかし中国本土やチベット、モンゴルまで中華民国領だと呼称しても、これを信じる人間は台湾国民を含めて世界に一人もゐないだろう。

(その主張を貫くならば蒋介石時代のやうに「官賊並び立たず」として「大陸反攻」

を唱へなければ筋が通らない。)

我が国は中華人民共和國政権が中国の「唯一」の合法政府であることを承認してゐる。

(一九七二年「日中共同宣言」し、国連も中国を「中華民国」の継承国家として常任理事国の地位を与えてゐる(国連憲章第二三条は「中華民国」の呼称のままである。)

中国側から見れば、台湾は「一中論」を認めた以上、華民国政府なるものは単なる内政上の「反乱政府」に過ぎず、いつでも鎮圧し得ることとなる。

世に外交交渉ほど危険なものはない。妥結すればよいが万一決裂した場合、兩國関係は最悪となる(開戦前の日米交渉を想起せよ。)

「一中論」は李登輝総統以来の「国と国との関係」論を覆したのみならず、中国に対して武力侵攻を正当化する絶好の口実を与へたものではないか。

悪意に解釈すれば、「一中」中華民国論は「中台統合」への一布石ではないか。

馬総統が屢々中国国民「同胞」と呼び、天安門事件二〇周年に際しても、中国軍の血の弾圧を単なる政府と民衆の

衝突として是認するかの如き媚中姿勢を示したと伝へられることも懸念される。

中台統合はその国力から見ても、国際情勢からも、共産中国による台湾併合に他ならない。

それは自由民主国の台湾国民にとって、最大の不幸であるのみならず、我が国の安全保障上も取り返しのつかない危険事態であることを日本国民は銘記しなければならない



社団法人亜東親善協会副会長

池田 偵一郎

社団法人亜東親善協会の

六十周年を祝う

基礎は千葉三郎先生が

今年には亜東親善協会が設立されてから六十年になるそう
だ。
人間ならば還暦のお祝いである。

いまは長寿社会だから人間の還暦は珍しくないが、激動する国際社会において、お互いに相手の国、人間を大切にしようという友好親善の団体が、六十年も続くということは大変珍しいと思う。

そこで、この協会が今後

益々発展し、アジアの平和と繁栄に貢献するためにも、盛大なお祝いをしたいものである。

x x x

亜東親善協会は昭和二八年の八月、東京で設立された「亜東工商協会」が源流となっている。

設立当初の会長は閑院春仁氏

(元宮家・閑院宮春仁王)。

理事長は、元南方軍司令官の矢崎勘十氏であった。

協会設立の目的は、昭和の

初期に始まった満州事変から太平洋戦争を通じて交流のあった東亜の諸国民が、国家や民族の対立意識を棄てて、お互いに平和と繁栄を念願し、交流を深めようということにあった。

昭和三二年四月閑院氏が会長を辞任したので千葉三郎先生が二代目会長に就任された。

そして今日の亜東親善協会の組織をしっかりとつくられたのである。

当時の中国本土は毛沢東の

共産党政権となり、中華民国の蒋介石政権は台湾に逃れて、本土反攻の再起を期していた。

千葉先生はもともと反共精神の強い方であったし、国民政府の張群先生や何応欽將軍なども親交があったのでまさに適役であったと思う。

当時わが国と中華民国の間

には、はっきりと日華平和友好条約が存在し、両国交流の基礎となっていたのである。そして自民党は党議として『中華民国とは外交を含む従来の関係を維持しながら日中正常化の交渉を行う』という

党議決定がなされていた。

にも拘わらず後の政府がこの党議を全く無視し、一片の外務大臣懇談だけで日華平和条約を破棄し日中平和条約を結んでしまったのである。

千葉先生はじめ多くの議員が、これは明らかに党議違反であり背信行為であると激しく憤ったが、すべては後のまつりであった。その後は国交がないまま友好親善の努力を続けられたのであるが、これは中華民国に対する友愛と義侠心から発したものである。

x x x

昭和三年の千葉先生の手記によれば、「二月二五日岸信介内閣総理大臣になる。

亜東商工会の会長に就任。張（満州国外交部長）、許（汕頭市長）、陳（上海市政府主席）、

等七八名の亡命者は、いずれも親日家で、戦時中日本のために尽くされた方々である。しかるに頼りにしていた日本が壊滅し、これに同情してあえて引受けたのである言々とある。

このほかに留学生や商社マンがたくさんいた筈であるが、その後突然国交がなくなり呆然とするばかりであったと思う。これらの人々に何らかの

対策をと千葉先生の政治的良心が働いたものと思う。

その後名称を亜東親善協会に変更、千葉先生が代表として社団法人の認可を受け、事務所を砂防会館に移し、腹心の森田大耕氏を事務長にして活動の範囲を拡げつつあった。

千葉先生が引退されたあとは原文兵衛先生、藤尾正行先生に続き、玉澤徳一郎先生が四代目会長となり、千葉先生の精神を継いで精力的に日台友好親善に活躍中である。

千葉先生をよく知る小島徹三先生（元法務大臣）によれば「千葉さんは政界には珍し

い善人。汚職には全く関係ない。国際的センスを身につけた真のゼントルマンである」と。

いま協会の設立六十周年を迎ふるにあたり、千葉先生のご努力に改めて尊敬を深くしているところである。

*民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で、昭和二四年（一九四九年）東京に設立された『華南倶楽部』が発生です。



亜東親善協会理事吉村俊夫

私の台湾に対する基本的認識

大東亜戦争（太平洋戦争）
終結後六十有余年を経て、国
際情勢をはじめあらゆる事象
が変遷した。

台湾は、技術力向上による
経済の発展と共に、李登輝元
総統の粘り強い努力により、
見事に自由と民主主義の政治
体制に変貌したが、国際関係
においては中国におもねる多

くの国々との国交は閉ざされ
たままである。この問題を詮
索するのは失礼だから控え
る。

また、台湾の二千三百万国
民の多くは、日本に対する期
待や想いを抱きながら、我が
国の裏切りにも似た国交断絶
以来、今なお相互の信頼は
変わることなく続いている。

戦前教育を受けた年輩者の
みが抱く郷愁だ、と言う輩も
いるが、決してそうではない。
涙ぐましいばかりの我が国
に対する好意は、一刻も早く
国際社会に復帰できる日を、
日本の協力によって実現させ
たいためであり、単なる情緒
的なものではなく、心底から
念願している心情である。

我々日本人は、かつての同
胞だった隣国台湾の過去と未
来を見据えて、相互の理解と
親善をますます深め、共にア
ジアの平和と安定を築く必要
がある。

地理的にも極東における、
我が国の安全保障上重要な地
域に位置していることを考え
あわせ、政治、経済、文化ば
かりではなく個々の人間の交
流に地道な努力を重ねなけれ
ばならない。

真の友好親善は、抽象的な
文章や言辞ではなく、具体的
実践活動によって進展させな
ければならない。

私が台湾に関心を抱き、日

本に最も近い友邦国と理解
し、大切にしなければならな
いと思いついた理由は次の通
りである。

一、私の母方の叔父が戦前、
台北市の繁華街（旧名：栄町、
世界館という映画館の前と聞
いている）で薬局を営んでい
た。幼い私は何度か誘いを受
けて、台湾訪問に憧れていた
が、戦争たけなわのときに子
供の旅は許されるはずもな
く、断念したことが尾を引い
ていた。

二、昭和五二（一九七七年）、
初めて台湾を訪問したとき、
現地の子供の親日的な挙措
に感動したことが強く印象に
残った。以来私は、留学生を

はじめ台湾出身者との交流を深める傍ら、台湾の歴史に関心を抱き、様々から認識を深めつつある。

三、日本の台湾と朝鮮半島に対する統治(植民地)政策は、欧米のそれとは異質で、決して収奪を目的としたものではなく、領土の社会資本の充実と教育制度の普及を図り、地域環境と民度の向上に多大な貢献を果たした。それを特に台湾の年輩者が理解して、懐旧的親日感を抱いていることを知った。

四、終戦時における文盲率は欧米の植民地に比べ格段の相違があり、戦後、学術、文化はもとより経済の発展に大き

く寄与した、と評価されたことも交流活動の自信につながった。

五、日本人特に若者は、台湾に対する認識が薄く、近隣の観光地である、中国の一部である、地図上の位置を知らないなど嘆かわしい状態にあるため、できる限り台湾の実態を啓蒙し、一人でも多くの理解者を増やさなければならぬ使命感を抱いた。

六、台湾海峡は我が国の生命線であり、我が国の安全保障の面から見ても、台湾の協力が得られなければ、我が国の損失は計り知れない。また、日台間の経済交流の上で、相互の貿易額は常に上位にあ

り、経済活動には欠かせない重要な存在である。

七、(社)亜東親善協会は、昭和四六年(一九七一年)、今は鬼籍の岸信介、福田赳夫、灘尾弘吉、千葉三郎、原文兵衛などの国会議員及び小生が薫陶を受けた拓殖大学(*)の元総長高瀬侍郎、元理事長椋木瑳磨太などの諸先生が役員となり、外務省の認可を受けた社団法人として発足した。

(*)明治三十三年元台湾総督桂太郎が開設した「台湾協会学校」は拓殖大学の前身)

協会が掲げる事業目的は「アジア地域諸国」との交流が主眼だが、現実には専ら台湾との交流に重点を置いている。縁あって小生は協会の活

動に微力ながら従事している。

以上の基本認識に基づき、昭和五二(一九七七)年台湾初訪問以来、台湾留学生交流をはじめ、台湾関係諸団体の会合等にできるだけ参加し、友人知己を得て親密を深め「台湾事情」を吸収してきた。

国際交流という言葉が巷に溢れている。私は地元浦安市の国際交流協会に関係していたとき、今は亡き会長が「国際交流の原点は人間交流だ」といわれた言葉を肝に銘じ、渡航経験があるアメリカ、中国、韓国などと比べ多くの知人がいる台湾をこよなく愛している。

台湾の人々との出会いは、
幼児や小学生から齢八十過ぎ
の先輩に亘り、各界の方々と
の人間交流が続けている。

浦安の男声合唱団と共に台
南で演奏会を開き終演後、聴
衆として見えた奇美実業会長
の許文龍先生の自宅に招か
れ、ヴァイオリン演奏を聴か
せていただいたことがある。

また、台南には私のために
一部屋を提供してくださる義
兄弟の契りを結んだ友人がい
る。反面我が家に泊まる台湾
の友人もいる。お互いに遠慮
なく振る舞う気安さが必要で
ある。

台湾へは毎年訪問してい
る。多い年は二、三回で通算
二五回余りになる。旅は独り

に限ると自ら決め込んで、時
にはラフなスタイルで予告も
せずに気軽に出かける。昨年
までのパスポート（有効期間
一〇年）の出入国記録は全て
台湾だった。

私は元来鉄道旅行が好き
で、日本のJR路線の約七
〇％は乗りこなしたが、台湾
の鉄道（新幹線を含む）はほ
ぼ全線乗っている。台北の地
下鉄（MRT）も同様だ。台
湾へ行くたびに駅の売店で時
刻表を買い、列車の時刻に自
らのライフサイクルを合わせ
ている。悠然と窓外を流れる
風景を堪能しながら駅弁を食
べるのは楽しみだ。

日本ではその機会は少なく
なったが、台湾の在来線はま

だ長閑な雰囲気がある。



かつては台湾の駅弁に手を出
さなかったが、最近は味も中
身も向上して美味しくなっ
た。お茶と弁当を下げて列車
に乗り込み、弁当の蓋を開け
ると漂う鶏肉と八角（調味料）
の香りは何ともいえない。

車窓の風景で最も好きな場

所は、南回線の「台東」と「太
武」の間にある「太麻里」や
「金崙」の沿線で、切り立つ
た山と紺碧の海が広がる素朴
な景観に吸い込まれるよう
だ。西部幹線の二水から出る
集集線の沿線は、素朴な田園
風景が連なり郷愁を誘う。

台湾の果物は南下するほど
種類も多く味も良い。勿論季
節によって収穫期が異なる
が、なかでも私は冬に収穫す
る蓮霧のさっぱりした味が好
きだ。

いずれ折を見て旅日記から拾
い出して、台湾の寸描を述べ
たいと思うが、私の旅情とは
恥ずかしながらその程度だ。

訪台団参加者 斉藤民生

訪台報告

この度、亜東親善協会のミッシェンにより李登輝元總統、馬英九總統を表敬訪問し、蒋介石總統の墓に詣り献花に参加することができました。

この訪問を通じて日本と台湾という国の関りと今後の進路について再認識する貴重な体験を学ぶことができました。

私は中国・台湾関係が共産党の巧みな戦略により台湾が世界不況下で孤立化を深め中国に吸収されてしまうのではないかと危惧を持つものです。そして、中国の覇権軍国膨張主義がひいては我が国に脅威として忍び寄って来ることを憂えざるを得ません。

私自身が中学校で漢文を学んだ憧れの古き良き中国は、どう見ても大陸に存しないようであります。

そもそも、唯物史観に立つマルクス共産主義は古き伝統を否定し、社会の欠陥をその仕組みに求める非人間的な思想であり、問題責任を自ら求めず他に転嫁する欠点を持つており、大陸において道義道徳の退廃をもたらしているのではないのでしょうか。

今回、お会いした李登輝元總統は中国には日本のように武士道精神がなく、四書五經に死生観がないこと、歴史的に天子が絶対という呪縛から離れられなく共産党一党独裁に身を委ねる非民主的政治を

指摘していたのが印象的でありました。

中国共産党は内部に矛盾が生じるとそのはげ口を外部に求め責任の所在から目をそらせるという手段をとることが顕著であります。

台湾は、二三〇〇万人の立派な主権国家であり、台湾海峡に万一の事態が生じれば台湾の要請次第によつては、わが国の自衛隊の派遣を検討する時代がくるかも知れません。

最低でも物心両面の援助を行うことが日本の責任であります。

中国共産党の一党独裁から民主化への移行は、長年月の歴史の試練を経なければなら

ないでしょう。

台湾がそれに耐え長期に渡つて繁栄し、大陸を民主化へ導くよう努力されることを祈るものです。

最後に一つ付け加えたいことがあります。

昼食の歓迎会に隣り合わせた四〇歳に満たない台湾人が私に八田与一について語ってくれたことあります。

八田与一は単に一〇年間でダムを造り、穀倉地帯にしただけに止まらず、その人望は銅像になり教科書にも載っているそうです。

昨今の日本のサラリーマン化した財界人も見習うべきであり日本の青少年の模範となる人物ではないでしょうか。

社団法人亜東親善協会

第三十八回通常総会

平成二十一年五月十九日(火)

於 ホテル・ルポール麹町

司会 藤山雅康理事

本日の出席者数について定款

二三条二項の規定により適法である旨報告

開会のことば

挨拶 玉澤徳一郎会長

議長選任の経過及び開会の宣言
定款第十九条三項により議長に、
張碧華理事を選出した。

議長は事務局より本日の出席者
を確認。定款二二条に規定され
ております重要な議案をご審議
いただきます旨をつけ、定刻開
会を宣した。

議事の経過の要領及び議案別議
決の結果議事録署名人選出議長
が諮り、千葉健司・三浦信行の

二名が選出、議事に入った。

議長より第一号並びに第二号議
案を一括審議する旨告げられた。

第一号議案 平成二十年度事業

報告承認の件(南部理事)

第二号議案 平成二十年度収支

決算報告承認の件(赤松理事)

平成二十年度数詞決算監査報告
(荘司監事)

議案書通り詳細な報告があり、
これを承認した。

議長より第四号議案並びに第五
号議案を一括審議する旨告げら
れた。

第四号議案 平成二十一年度事

業計画案承認の件(南部理事)

第五号議案 平成二十一年度収

支予算案承認の件(赤松理事)

議案書通り詳細な報告があり、

これを承認した。

議長より本日の議案の審議は全
て終了。皆様のご協力に厚く御
礼申上げると挨拶がありました。

司会藤山理事より、休憩後講演

会の案内がありました。

○講演会司会・三浦信行理事

台北駐日経済文化代表處

馮寄台閣下、

玉澤徳一郎会長

○懇親会司会・赤松則宏理事

挨拶 玉澤徳一郎会長

乾杯音頭 笹川堯 協会顧問

祝辞 張仁久 代表處業務部長

祝辞 齊藤毅 台湾協会理事長

中締め 大江康弘副会長

ご出席顧問(含む代理)

台北駐日経済文化代表處

代表 馮寄台閣下

交流協会 畠中篤理事長

衆議院議員 愛知和男先生

衆議院議員 井上信治先生

衆議院議員 白井日出男先生

衆議院議員 内山晃先生

衆議院議員 金子善次郎先生

衆議院議員 亀岡偉民先生

衆議院議員 小池百合子先生

衆議院議員 坂本剛二先生

衆議院議員 笹川堯先生

衆議院議員 棚橋泰文先生

衆議院議員 並木正芳先生

衆議院議員 松本洋平先生

衆議院議員 三ッ林隆志先生

衆議院議員 村田吉隆先生

衆議院議員 吉川貴盛先生

衆議院議員 秋元司先生

衆議院議員 岩城光英先生

衆議院議員 魚住裕一郎先生

衆議院議員 大江康弘先生

衆議院議員 松下新平先生

衆議院議員 山本順三先生

衆議院議員 若林正俊先生

日付	都市名	時間	摘要
3月 19日 (木)	成田 発 桃園 着	7:40	成田空港第二ビル中華航空カウンター前集合
		9:40	中華航空CI-107便にて空路、台北へ
		12:30	桃園国際機場着
		13:30	桃園国際機場発(新竹サイエンスパークへ)
		14:30	財団法人國家実験研究院國家太空中心視察
		17:30	ホテル着
3月 20日 (金)	台北市	18:30	亜東関係協会(蔡明耀夫妻主催)歓迎晩餐會 【台北國賓大飯店 泊】
			ホテルにて朝食
		8:30	ホテル発
		9:00	國防部軍備局第二〇二廠視察
		10:30	國防部軍備局第二〇二廠 発
			忠烈祠 参拝
		12:00	臺灣觀光協會(老爺酒店)表敬訪問
		14:00	老爺酒店 発
		15:00	臺灣綜合研究院(元總統・李登輝閣下)表敬訪問
		17:00	總統府(總統・馬英九閣下)表敬訪問
3月 21日 (土)	台北市 桃園 発 成田 着		ホテル着
		19:00	亜東親善協会(玉澤会長主催)答礼晩餐會 【台北國賓大飯店 泊】
			ホテルにて朝食
		8:00	ホテル発
		9:00	桃園縣大溪郷・慈湖陵寢(蒋介石總統)献花 三峽老街・清水祖師廟
	桃園国際機場着		
	中華航空CI-106便にて空路、帰国の途へ		
	成田空港着。		
	着後解散。		

平成二十年度訪台団報告

参加者 一五名

*訪問先

財団法人國家実験研究院

國家太空中心 (NSPO) 視察

NATIONAL SPACE ORGANIZATION

陳紹興博士の訪問団歓迎の

挨拶を受けた。

一九九一年開設

二〇〇六年五月

米カリフォルニアヴァンデンバーグ空軍

基地より、氣象衛星 (FORMOSAT3)

6基の打ち上げ (一回で) に成功した。

装置等、視察。

に有るか、軌道運航状況、管制

管制室内、現在の衛星が何処

打上、運航状況等解説説明。

上映、台湾の人工衛星の歴史、

管制センター隣室で、ビデオ

シリーズ衛星の総合的操作実行。

主な機能は FORMOSAT

衛星管制センター

衛星組立・試験施設棟

人工衛星と各種計器類の組立

様々な模擬試験の装置を視察。

衛星が軌道を描いて回周する

ために、あらゆる想定される条

件の下での耐久実験を行い、

衛星と計器類を組み立てると

のこと。

専用バス・新竹サイエンスパークへ

桃園着 二二時二〇分着

成田発 九時四〇分発 中華航空

集合 七時四〇分・成田空港第二ビル

中華航空カウンター前

第一日目・三月十九日(木曜日)



亜東関係協会歓迎晩餐会

國賓大飯店二樓・四香園

蔡明耀秘書長夫妻主催の晩餐会
訪台団一同お招きを受けました。

日本でお世話になりました

徐瑞湖副秘書長

洪英傑秘書

陳敏永秘書、同席されました。

蔡秘書長の歓迎の挨拶。

赤松理事による答礼。開宴。

政府提出の入管法改正により
在留カードに台湾表記が出来る
ようになる話がありました。

台北に延着の多忠和理事合流。
「専門学生・留学生の受入れ、
生活相談、在日留学生に対する
進学、就職斡旋等、日台交流に
ついて説明挨拶がありました。」

第二日目・二月二日（金曜日）

國防部軍備局訪問

崔副廠長のお迎え。

西餐室にて茶話会。此処での生
産物。台湾全土に配置されてい
る他工場・生産品等説明があり。
參觀陳列館で、武器裝備の能力
など説明がありました。

日本国内でも見ることが出来な
い。小火器、銃弾、特車、裝備
等に接し、自らの国は、自らが
護ることを、思い起こしました。

忠烈祠参拝

一九六九年の建造で、国民革命
や抗日戦争、中国共産党との戦
いで命を落とした軍人や志士の
英霊を祀っている。日本統治時
代には護国神社があった。本殿
は北京の太和殿を模した建物で
本殿の両側には英霊達の写真や
銅像等が飾られた殿閣がある。

臺灣觀光協會表敬訪問

台北老爺大酒店で林清波副会長
を始め、王振銘董事等協会幹部。
亜東関係協会行政組長李丙先生
同席のもと、懇談をした。

林副会長は、歓迎の言葉の中で、
日台観光促進協議会・日台観光
協会、第二回日台観光サミット
などこの間の奮闘によって台日
提携はいままで以上に強固にな
っていることを強調された。

日本側より、日台間航空チャー
ター便・直行点の増加、青少年
のワーキングホリデー制度開始、
出入国管理法改正案により、外
国人登録制度が、市町村委託か
ら法務省入国管理局に一元化す
ることより、外国人登録証が、
在留カードとなり、住民基本台
帳法改正で、カードには、「国籍
または日本政府が認める旅券を
発行している地域」として台湾

表記が記載される見通し（平成
二四年）となるなど、日台間の
緊密化を説明した。

台湾側から日本市場を分析する
と二〇〇五年以降来台日本女性
の比率が上昇しているものの、
一九歳以下の日本人があきらか
に減少していることがわかった。
台湾市場についても動向の分析
がおこなわれ、台湾禁煙法実施
後の影響、台湾健康保健旅行の
浸透、温泉風俗習慣の違い（台
湾・マツサージ・健康食の提案
日本・大浴場の裸で入浴・大部
屋での多人数宿泊等）等、多方
面的な議論が展開された。
会議室（梅花廳）から移動して
杜鵑廳で臺灣觀光協會主催の午
宴に招待され、老爺迎賓盤、清
宮扶杖元湯、杏汁木瓜軟玉盅等
食事を採りながら楽しい懇談が
なせれ、友好親善の増進ができ
た訪問でありました。

元総統李登輝閣下表敬訪問

臺灣綜合研究院(淡水)に尋ね、秘書小栗山雪枝様の案内で三〇階の応接に案内された。

日本交流協会台北事務所代表

齊藤正樹様、亜東関係協会秘書
洪英傑先生が同席された。

李登輝閣下は、団員の名前を呼ばれ握手をされた。

玉澤会長が挨拶されたあと、李登輝閣下より「弊協会訪台団のご来訪に寄せて」の話がありました。

日本亜東親善協会、玉澤会長、齊藤大使、及びご来賓の皆様、こんにちは！ご来訪を心から歓迎いたします。

今日は皆様は何をお話したら良いだろうか、色々考えて参りました。いま、皆様が、最も関心を持ち、そして気にしている問題は、台湾と中国大陸の関

係ではなかるうかと思えます。

最近に於ける国民党、馬政府による中国への接近と、将来の中国関係が日本でも非常に関心がもたれているようです。

この問題に関して、明確な分析と解答を与えるコラムが、産経新聞の台北支局長山本薫先生昨日、到着されたばかりです。よって発表されております。

お読みになった方もいるでしょうが、今日は私からこのコラム【産経新聞・東亜春秋・台湾の国際参加を応援しよう】を基礎にして皆様に、ご報告しようと思えます。

*講和 content と「台湾の民主化が直面する内外の危機」については次号に掲載予定しています。

二三年間、新しい課題、日本人の心と心の絆を大切に、台湾に又 来て下さい。



中華民國總統府表敬訪問

總統府にて会見

總統 馬英九閣下

國家安全會議秘書長 蘇起先生

外交部政務次官 夏立言先生

交流協会台北事務所 齊藤正樹代表

亜東関係協会秘書長 蔡明耀先生

外交部日文翻訳 蘇定東傳訳

總統馬英九閣下は、總統府において亜東親善協会会長、玉澤徳一郎衆議院議員と会見し、中華民國政府と國民を代表し歓迎の意を示し、「今回は玉澤議員にとり一七回目の訪台であり、私にとっても玉澤議員は四回目の会見となった」と述べた。

玉澤会長は、台湾との間には、漁業問題がある。昨年我が国の海上保安庁の船と遊漁船が衝突する事件が起きた際、我が国は、心からのお詫びと、海保が被害者に謝罪し、賠償に応ずること。

日台漁業会談は、二〇〇五年より三年半近く開催されず、自分が農水大臣として日中・日韓間において、海洋二百海里法のもとに漁業協定を結んで解決を図った事、台湾との間にも同様の解決方法があること話し、理解を求めた。

馬總統は、「対日関係はまだ多くの発展可能の余地があることから、私は今年を特に、『台日特別パートナー関係促進年』と位置づけ、台日連絡ルートの増加、文化交流の増進、ワーキングツホリデーの協定締結、北海道札幌弁事處の開設、台北の松山空港と羽田空港間の航空路線開通、東京での台湾文化センター設立、嘉南平原に八田與一記念パーク設置といった幾つかの構想を打ち出している」と説明があった。

總統と団員の記念撮影を撮った。

亜東親善協会主催答礼晩餐会
台北國賓大飯店十二樓・摘星樓
司会 赤松則宏理事

主催者玉澤徳一郎会長より挨拶。
ご出席者

立法院長 王金平閣下

交流協会 斉藤正樹代表

亜東関係協会 蔡明耀秘書長

臺灣觀光協会 林清波副会長

元總統府顧問 方仁恵先生他

立法院、外交部、交流協会、觀光協会、在台日本報道各社の方が参加されました。

王金平閣下は公務でしたが、東海岸より急遽、晩餐會出席の為、台北に戻られ歓迎の言葉を頂戴できました。

司会より出席者の紹介もあり、各テーブルとも懇談も進み、日台友好親善交流の増進が図れた夕宴でありました。

第三日目・三月二日(土曜日)

慈湖陵寢(桃園縣大溪郷)

慈湖は蒋介石總統・頭領は蔣経國總統の遺体仮安置所で、豊富な歴史文化があり、桃園縣でも最も重要な観光資産であり、歴史の存在価値はいかなるイデオロギーも帯びるべきでない。全台湾、全世界の人々が美しい慈湖や頭領の景色や歴史資産を再び開放することを期待してる。

(桃園縣・朱立倫縣長)

昨年から開放された慈湖陵寢は、国防部で衛兵交替儀式を復活している。

訪台団は敬慕の意を示し、花環を捧げ参拝をした。

両蔣文化園區には、百五十余体の蒋介石總統の銅像が集められて展示されている。

三峽老街

清朝末期から日本統治時代にかけて樟腦や茶葉、染物の交易でにぎわった古い街。

清水祖師廟の西側にあり、全長二〇〇米余り、約一〇〇軒以上の土産物屋、骨董店、飲食店、ギャラリィ並ぶ、台湾伝統的なバロック風長屋で、道路に面している部屋はアーケード、奥は住宅のスペースになっている。

清水祖師廟

台湾を代表する彫刻建築。

乾劉三四年(一七六九)創建。

三回目の再建は、台湾光復後、工事が始まったのは、一九四七年、その工程は、現在も進行中です。


祝創立 60 周年 社団法人亜東親善協会

<p>衆議院議員 白井 日出男</p>	<p>日華親善協会全国連合会 会長 平沼 赳夫 東京都千代田区永田町一、二二八 相互永田町七九番 電話〇三三五〇八五八六一</p>	<p>衆議院議員 社団法人亜東親善協会 会長 玉澤 徳一郎</p>	<p>台北駐日経済文化代表處 代表 馮 寄台</p>
<p>衆議院議員 三ツ林 隆志 東京都千代田区永田町一、二 衆議院第一議員会館二九号室 電話〇三三五〇八七〇一九</p>	<p>衆議院議員 古屋 圭司 東京都千代田区永田町一、二 衆議院第一議員会館四〇号室 電話〇三三五〇八七四四〇</p>	<p>衆議院議員 平沢 勝栄 東京都千代田区永田町一、二、一 衆議院第一議員会館五二七号室 電話〇三三五〇八五二二一</p>	<p>衆議院議員 坂本 剛二 東京都千代田区永田町一、二、一 衆議院第一議員会館二二号室 電話〇三三五〇八七四二二</p>
<p>参議院議員 山本 順三 東京都千代田区永田町一、一、一 参議院議員会館七二四号室 電話〇三三五〇八八七二四</p>	<p>改革クラブ国会対策委員長 参議院議員 松下 新平 東京都千代田区永田町一、一、一 参議院議員会館四三三号室 電話〇三三五〇八八四三三</p>	<p>改革クラブ国会対策委員長 参議院議員 大江 康弘 東京都千代田区永田町一、一、一 参議院議員会館五二二号室 電話〇三三五〇八八五二二</p>	<p>自由民主党政経理局長 衆議院議員 宮路 和明 東京都千代田区永田町一、二、一 衆議院第一議員会館〇五号室 電話〇三三五〇八七〇五</p>
<p>台北駐大阪経済文化辦事處 福岡分處 處長 周 碩穎 福岡市中央区桜坂三、二二四一 電話〇九一七三二四二八〇</p>	<p>台北駐日経済文化代表處 横浜分處 處長 黄 明朗 横浜市中区日本大通り六〇 朝日生命ビル 階 電話〇四五二六四二七七七</p>	<p>元衆議院議員 橘 康太郎 富岡高岡市守山西一 電話〇七六〇二二〇〇五</p>	<p>参議院自由民主党政幹事長 参議院議員 谷川 秀善 東京都千代田区永田町一、一、一 参議院議員会館四四〇号室 電話〇三三五〇八八四四〇</p>

祝創立 60 周年 社団法人亜東親善協会

<p>財団法人交流協会 理事長 畠中 篤</p>	<p>財団法人台湾協会 会長 園部 逸夫 理事長 齋藤 毅</p>	<p>日本中華聯合總會 会長 詹 徳憲 東京都台東区恵比寿二・二八・二〇 秀七少階 電話〇二(三四四)九九六六</p>	<p>日本華商總會 名譽理事長兼委員長 朱 文元 理事長 林 錦漫 理監事一同 東京都港区六本木七・五・一〇 電話〇三(三四〇八)四四六八</p>
<p>東京日華親善協会 会長 山蔭 基央 東京都中央区千駄ヶ谷一・八・二 日興ハレス千駄ヶ谷五階 電話〇三(三四七九)七〇八七</p>	<p>日華親善協会全国連合会理事長 大分県二豊日華親善協会会長 大分県議会議員 志村 学 大分県臼杵市廣西五組 電話〇九七二(六二〇)三五六六</p>	<p>学校法人横浜中華学院 理事長 鄭尊 仁 校長 中山 忠秀 神奈川県横浜市中区山下町一四番 電話〇四五(六八二)三三〇八</p>	<p>エイチアイグループ TOKYO DAIHANTEN 代表取締役社長 李 純京 東京都新宿区新宿五・一七・一二 電話〇三(三四〇八)〇〇一一</p>
<p>台湾観光協会 東京事務所 所長 江 明 清 東京都港区西新橋一・五・八 川手ビル二階 電話〇三(三五〇二)三三九九</p>	<p>チャイナエアラインズグループ 關タイナスティー ホリデー 代表取締役社長 國廣 傑 東京都中央区銀座三・八・二三 銀座三丁目ビル二階 電話〇三(五五四)〇八八〇</p>	<p>株式会社ホテル横須賀 代表取締役 長尾 和典 神奈川県横須賀市水が浜通一七 電話〇四六(八二五)一一二一</p>	<p>(有) 冲山興業 代表取締役 冲山 建夫 東京都八丈島八丈町二根一八・二五 電話〇四九九六(〇〇〇)一一</p>
<p>株式会社昭和綜合サービス 財団法人台協協会委員長 故松岡清・三男 代表取締役 松岡 晋 埼玉県浦和市高砂三・一四・二四 電話〇四八(八三三)八二〇〇</p>	<p>中華民国留日台湾同郷會 名譽会長 會長 詹徳憲 黄宗敏 莊海樹 劉東光 黄宗民 陳木川</p>	<p>會長 時鎮棟 副會長 葉彦宏 楊元珍 張維正 李懋鑽 顧問・理事・監事一同</p>	

祝創立 60 周年 社団法人亜東親善協会

<p>(社) 亜東親善協会 専務理事 崎谷 秀彦 東京都千代田区平河町一七・一五 電話〇三(三三六)二六四〇五</p>	<p>東京電気商会 代表 張 碧華 東京都千代田区外神田二七・七 電話〇三(三三七)〇〇三三</p>	<p>(社) 亜東親善協会 副会長 池田 慎一郎 千葉県佐倉市宮田二二・一・五 電話〇四(四八〇)三三三三</p>	<p>後藤泌尿器科皮膚科医院 院長 後藤 康文 岩手県宮古市大通一・三・一四 電話〇一九(三六〇)三六三〇</p>
<p>あさみ野ローニテニスクラフ 代表 益山 茂 横浜市青葉区あさみ野二一九・二 電話〇四五(九〇)二九〇二一</p>	<p>エイチアイグループ TOKYO DAIHANTEN 常務取締役 李ハロルド 東京都新宿区新宿五・一七・二三 電話〇三(三三〇)〇二二二</p>	<p>学校法人 電子学園 理事長 多 忠和 東京都中央区本町二丁目一 電話〇三(三三九)六一九四三</p>	<p>(社) 亜東親善協会 理事 吳 淑娥 東京都杉並区下井草一二七・二四 電話〇三(三三九)六一九四三</p>
<p>(社) 亜東親善協会 監事 莊司 隆一 小金井市貫井南町四・二二・一七 電話〇四(三三八)八六三三</p>	<p>(社) 亜東親善協会 監事 寺部 かつ 鎌倉市材木座六・一三・二一 電話〇四六(七〇五)二五七六</p>	<p>(社) 亜東親善協会 理事 東 達夫 電話〇三(四六)二一五五</p>	<p>(社) 亜東親善協会 理事 程 金筭 東京都台東区寿一・一九・一 電話〇三(三八四)二七二</p>
<p>陶絵王国とうえおうこく 白い素焼きの陶器で あなたの世界を表現してみませんか? 〒167-0022 東京都杉並区荻窪 5-10-25 1F JR 荻窪駅徒歩6分 TEL/FAX 03-5347-0078 11:00 ~ 19:00 無休</p> 		<p>株式会社自由新聞社 社長 黄 清林 東京都港区三田五・一八・二二 電話〇三(三四)六一五五</p>	<p>日華仏教文化交流協会 東京都台東区寿一・一九・一 電話〇三(三八四)二七二</p>

【お知らせ】

○ 亜東親善協会通常総会・講演会

第三十八回通常総会は、五月十九日ホテル・ルポール麹町で開催。

講演会 馮寄台閣下、玉澤徳一郎会長の講演記録は「亜東秋号」に掲載

○ 社会見学会・五月二十九日、東証・日銀、開催。秋季は、計画中。

○ 創立六十周年記念行事

訪台団は、十月九日から一二日まで双十国慶節祝賀団を催行致します。

記念式典・講演会は、十一月十六日 憲政記念館にて開催予定。

国会見学会七月開催一般会員。留学生対象は、開催日未定。

○ 故宮博物院の美術品の日本貸出について、衆議院議員・古屋圭司協会

顧問が今国会に「海外美術品名等公開促進法案」を議員立法で提出。

国内の美術館が海外から借りている美術品の差し押さえを防ぐため。

○ 六月一日より日台双方でワーキングホリデー制度（一八歳から三〇歳・

年間二千人）開始。査証を発給する。

○ 台北駐日経済文化代表處札幌分處が開設されることになりました。

○ 台湾資料センターは、七月一日より台北経済文化代表處一階へ移転。

○ 国慶節祝賀会 台北駐日経済文化代表處一〇月八日・ホテルオークラ。

東京華僑総会は、一〇月四日・東京中華学校。

横浜華僑総会は、一〇月五日・ローズホテル。

【編集後記】 季刊「亜東」夏季号

○ 本号より、一部カラー印刷となり、巻頭「亜東」は馬英九總統のご揮毫です。

○ 協会の活性化を目指し、会員の拡充を図っています。会員各位のご紹介により多くの皆様のご参加を期待致しております。（申込書は事務局に用意してあります）

【年会費】①法人五万円以上。②賛助会員三万円。③個人一万円。

季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 平成21年 夏季号 (No.30)
発行日 : 平成21年7月15日
発行所 : 社団法人亜東親善協会
発行人 : 玉澤徳一郎
所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階
Tel:03-3261-6405 Fax:03-3556-5770
H P : <http://homepage3.nifty.com/atousinzen>
印刷 : ヨシダ印刷株式会社

社団法人亜東親善協会顧問

(五十音順・敬称略)

【衆議院議員】

安倍 晋三	愛知 和男	赤池 誠章	麻生 太郎
新井 悦二	井上 信治	伊藤 公介	石破 茂
岩屋 毅	白井日出男	内山 晃	江崎洋一郎
遠藤 利明	大野 松茂	大野 功統	奥野 信亮
奥村 展三	嘉数 知賢	金子善次郎	金子 恭之
亀井 久興	亀岡 偉民	北村 茂男	小池百合子
小島 敏男	坂本 剛二	笹川 堯	佐藤 剛男
下地 幹郎	高市 早苗	高木美智代	高鳥 修一
棚橋 泰文	谷川 弥一	中井 洽	中川 秀直
長島 昭久	長勢 甚遠	中村喜四郎	並木 正芳
西村 真悟	萩生田光一	鳩山 邦夫	林 幹雄
平沢 勝栄	平沼 赳夫	船田 元	古屋 圭司
前原 誠司	松本 洋平	水野 賢一	宮路 和明
三ツ林隆志	村上誠一郎	村田 吉隆	森 喜朗
谷津 義男	山本 明彦	吉川 貴盛	吉田六左工門
鷺尾英一郎	渡辺 博道	渡部 篤	

【参議院議員】

秋元 司	泉 信也	岩城 光英	魚住裕一郎
大江 康弘	岸 信夫	木村 仁	佐藤 昭郎
山東 昭子	世耕 弘成	田名部匡省	谷川 秀善
鶴保 庸介	浜四津敏子	平田 健二	松下 新平
矢野 哲朗	山内 俊夫	山崎 正昭	山根 隆治
山本 順三	吉村剛太郎	若林 正俊	

社団法人亜東親善協会顧問 (順不同・敬称略)

【関係機関の代表】

馮 寄 台	中 田 宏	畠中 篤	齋藤 毅	詹 德 薰
林 錦 清	小田村四郎	黄 清 林	林 瑞 祥	長尾 孝則
楊 作 洲	李 海 天	羅 鴻 健	鄭 尊 仁	李 純 京
羅王 明珠	謝 文 政			

社団法人亜東親善協会役員名簿

[会 長]	玉澤徳一郎				
[副 会 長]	池田偵一郎	張 建 國	張 碧 華	橘 康太郎 大江 康弘	
[専務理事]	崎谷 秀彦				
[事務局長]	南部 晴彦				
[総務担当]	仲谷 俊郎	[組織担当]	益山 茂	[財務担当]	赤松 則宏
[広報担当]	吉村 俊夫	[事業担当]	小松 省二	[国会担当]	橋本 靖男
[理 事]	千葉 健司	東 達夫	新井 秀子	李ハロルド	松永理恵子
	多 忠和	藤山 雅康	三浦 信行	李陳 秀鳳	高野 正忠
[監 事]	寺部 かつ	荘司 隆一			
[支 部 長]					

[青森県]大見光男 [岩手県]高橋義麿 [茨城県]石川多門 [広島県]月村俊雄

心に残る、空の時間。



ご予約・お問い合わせ www.jal.co.jp 国内線 ☎ 0120-25-5971 (営業時間 6:30~22:00 / 年中無休)
国際線 ☎ 0120-25-5931 (営業時間 8:00~20:00 / 年中無休)



Dream Skyward. **JAL**